

平成18年3月期 中間決算説明会資料

曾田香料株式会社

代表取締役社長 光安哲夫

目次

- .会社概要
- .平成18年3月期 中間決算概要 (連結)
- .平成18年3月期 中間決算概要 (単体)
- .平成18年3月期 業績予想
- .中期経営課題 (平成16～18年度)の進捗状況

.会社概要

会社概要

1) 経営理念

「香料を中心とする各種製品の開発と生産を進め、
これを顧客に販売することを通じて、社会に奉仕する」

2) 事業所

本社 (東京都中央区) 大阪支店、札幌営業所
野田工場 (千葉県野田市) 郡山工場 (福島県郡山市)

3) 関係会社

連結子会社	岡山化学工業(株)、(株)ソダアクト
持分法適用関連会社	台湾曾田香料(股)、遠東香料(股)
非連結子会社	曾田香料(昆山)有限公司

4) 従業員数 (H17年9月末 有価証券報告書基準)

連結	350名
単体	286名

5)事業内容

フレグランス（香粧品香料）

シャンプー・リンス、石鹸、芳香剤、入浴剤等に使用



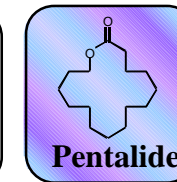
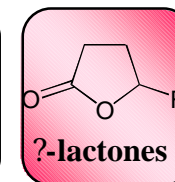
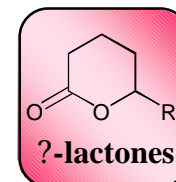
フレーバー（食品香料）

飲料、菓子、調味、たばこ、飼料等に使用



合成香料・ケミカル

- ・ラクトン類、大環状ムスク等のフレグランス・フレーバー-素材
- ・ガス着臭剤(都市ガス・LPG用)
- ・医薬・農薬中間体、電子材料等



.平成18年3月期 中間決算概要 (連結)

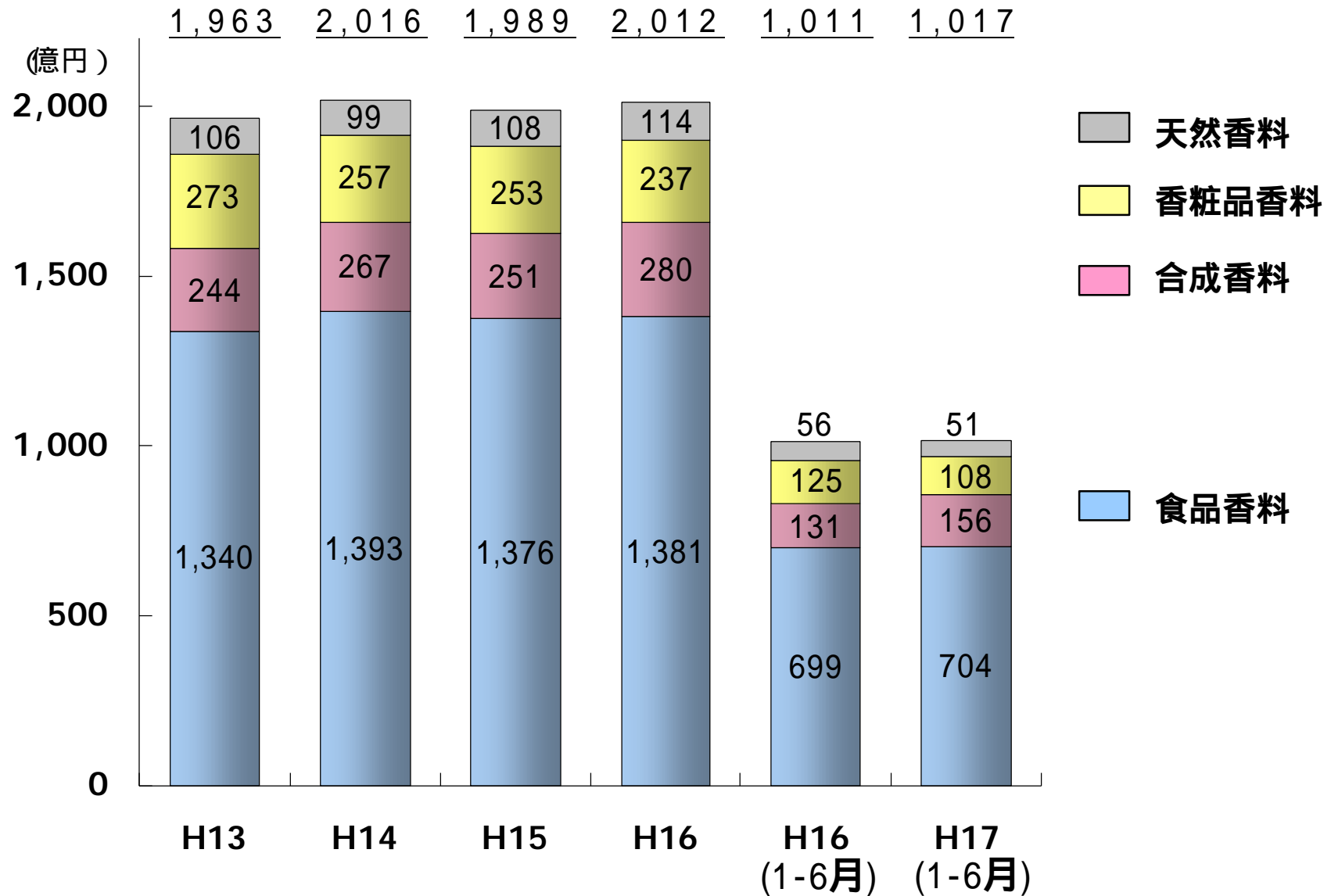
連結業績の概要 (収益)

億円

	前中間期		当中間期		増減	
	H16/9	構成比 (%)	H17/9	構成比 (%)	金額	%
売上高	94.5	100.0	95.2	100.0	+ 0.7	+0.8%
売上原価	67.8	71.8	67.7	71.2	0.1	0.1%
売上総利益	26.7	28.2	27.4	28.8	+ 0.7	+2.9%
販管費	19.3	20.5	19.0	19.9	0.3	1.9%
営業利益	7.3	7.7	8.5	8.9	+ 1.2	+15.5%
経常利益	7.4	7.8	8.5	9.0	+ 1.1	+15.3%
税引前中間純利益	7.4	7.8	8.5	8.9	+ 1.1	+15.1%
中間純利益	4.7	5.0	5.3	5.6	+ 0.6	+12.5%

国内香料市場推移 (製品販売金額ベース)

(日本香料工業会 販売統計より)



部門別概況 (1)

フレグランス

国内向けでは化粧品用香料をはじめ全般的に低調。
アジア向け輸出用調合香料も前年同期を若干下回り、
全体で減収。

売上高	7.8% (製品 10.0% 、 商品 1.6%)
------------	--------------------------------------------------

国内香料業界の前年同期比伸長率 (H17年1-6月)】

	国内平均
フレグランス	14.3%

部門別概況 (2)

フレーバー

食品用香料は猛暑効果の反動もあり既存製品が伸び悩み減収。

たばこ香料も国内市場向けが低調に推移。

売上高	+ 0.4%	(製品	5.8%	、商品	+ 7.8%)
-----	--------	------	------	-----	--------	---

国内香料業界の前年同期比伸長率 (H17年1-6月)】

	国内平均
フレーバー	+ 0.6%

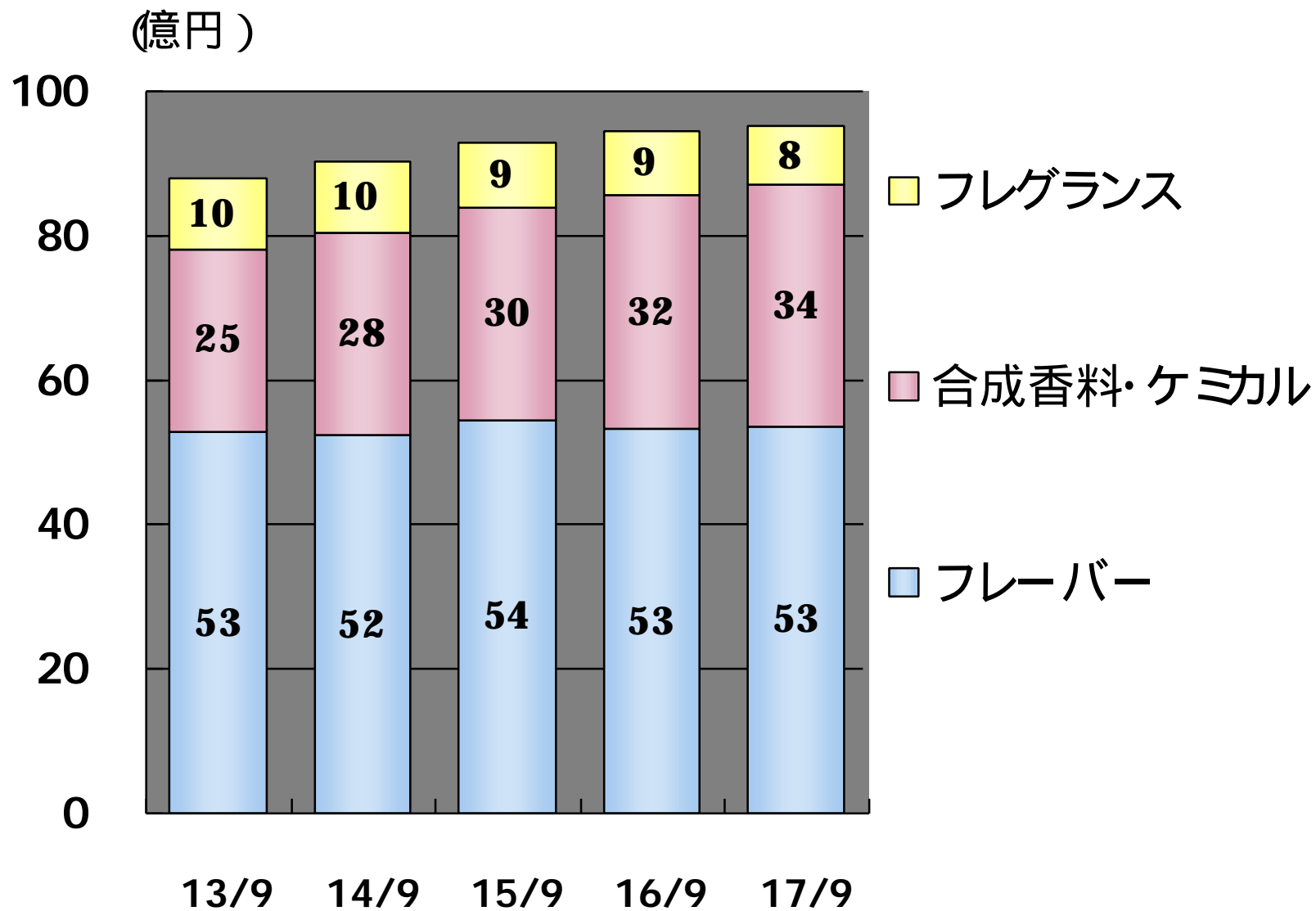
部門別概況 (3)

合成香料・ケミカル

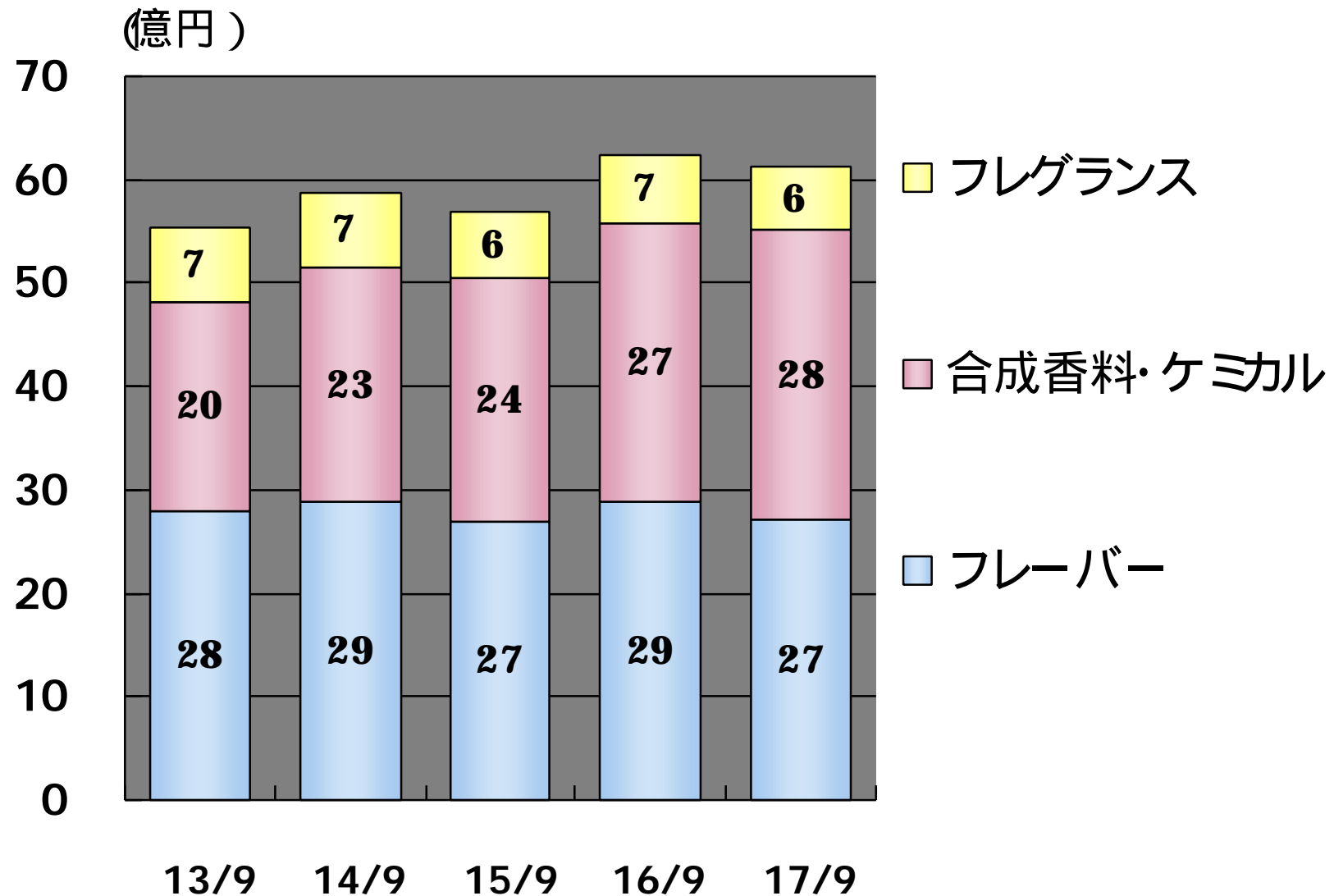
合成香料は主力のラクトン類が海外向けを中心に好調。
ケミカルも、化成品や着臭剤が伸び、
全体でも増収。

売上高	+ 3.7% (製品 + 4.0%、商品 + 2.0%)
------------	-------------------------------------

部門別売上高推移

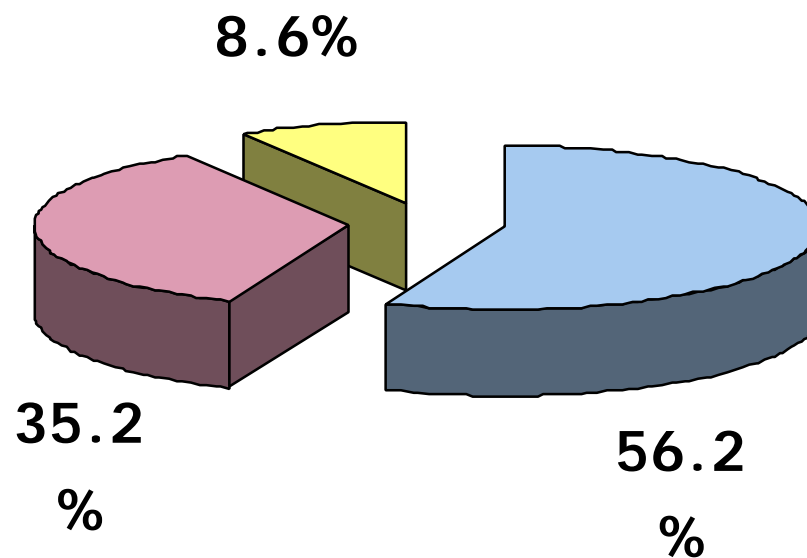


部門別売上高推移 (製品)

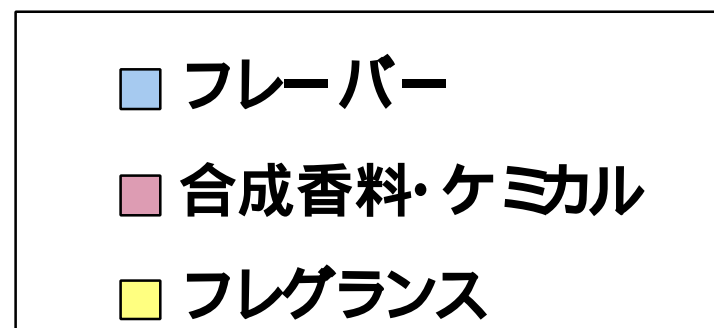
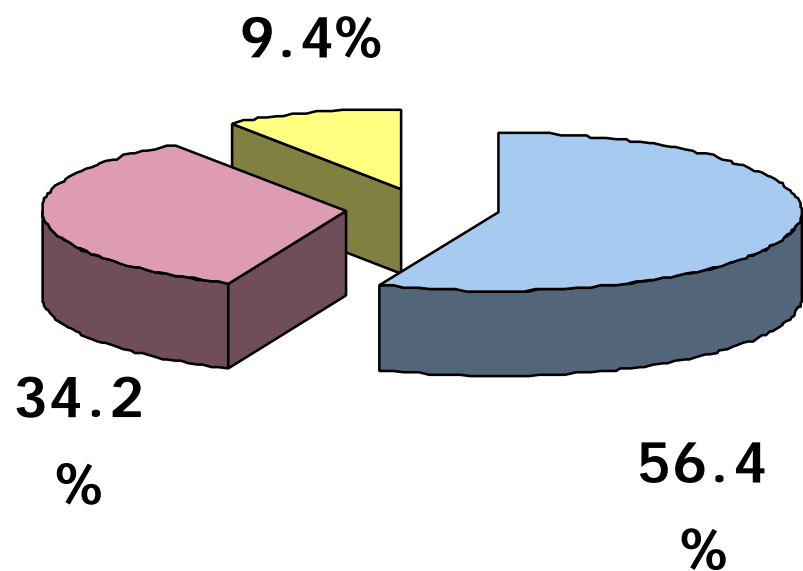


部門別構成比率

H17/9



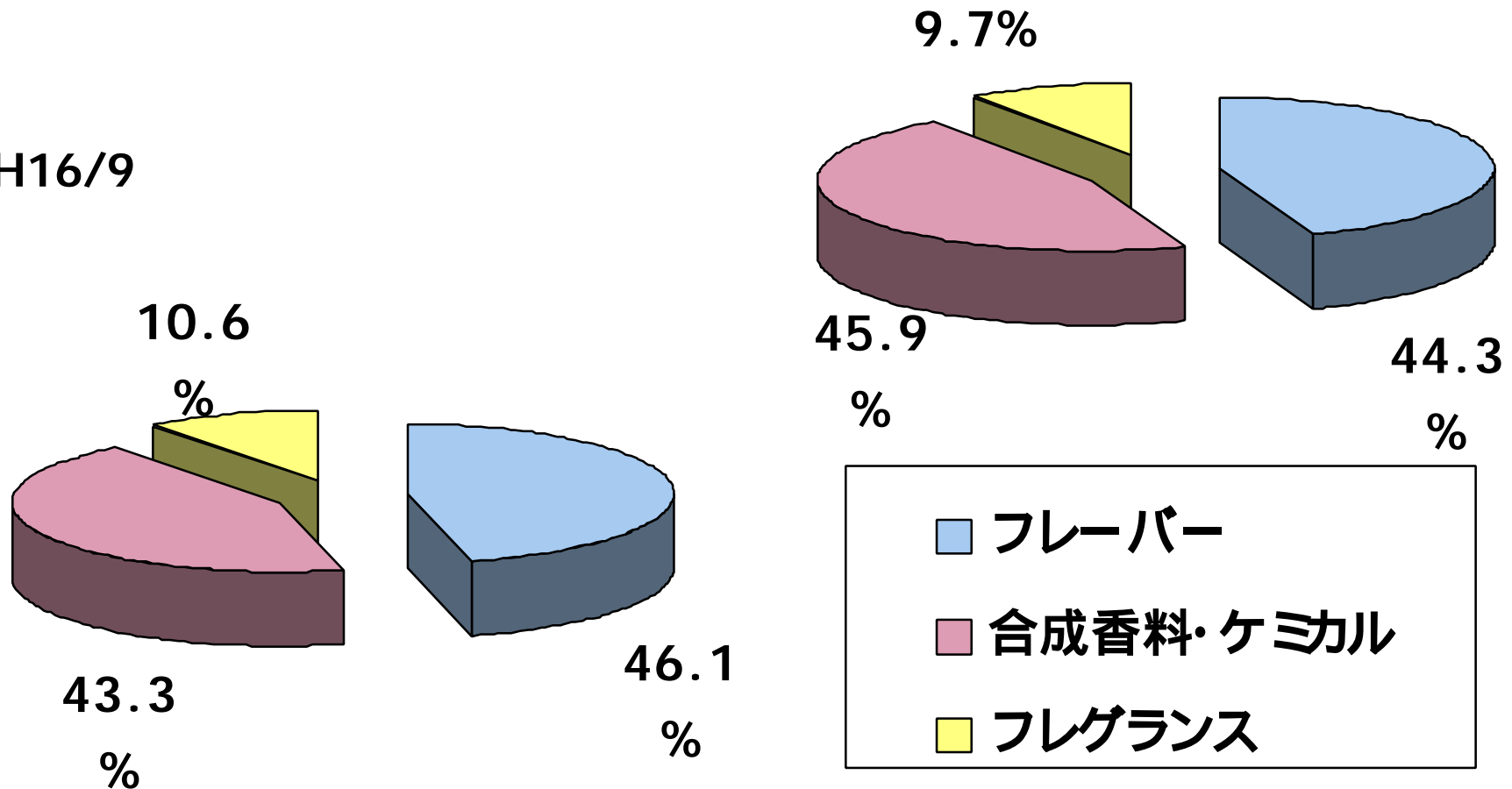
H16/9



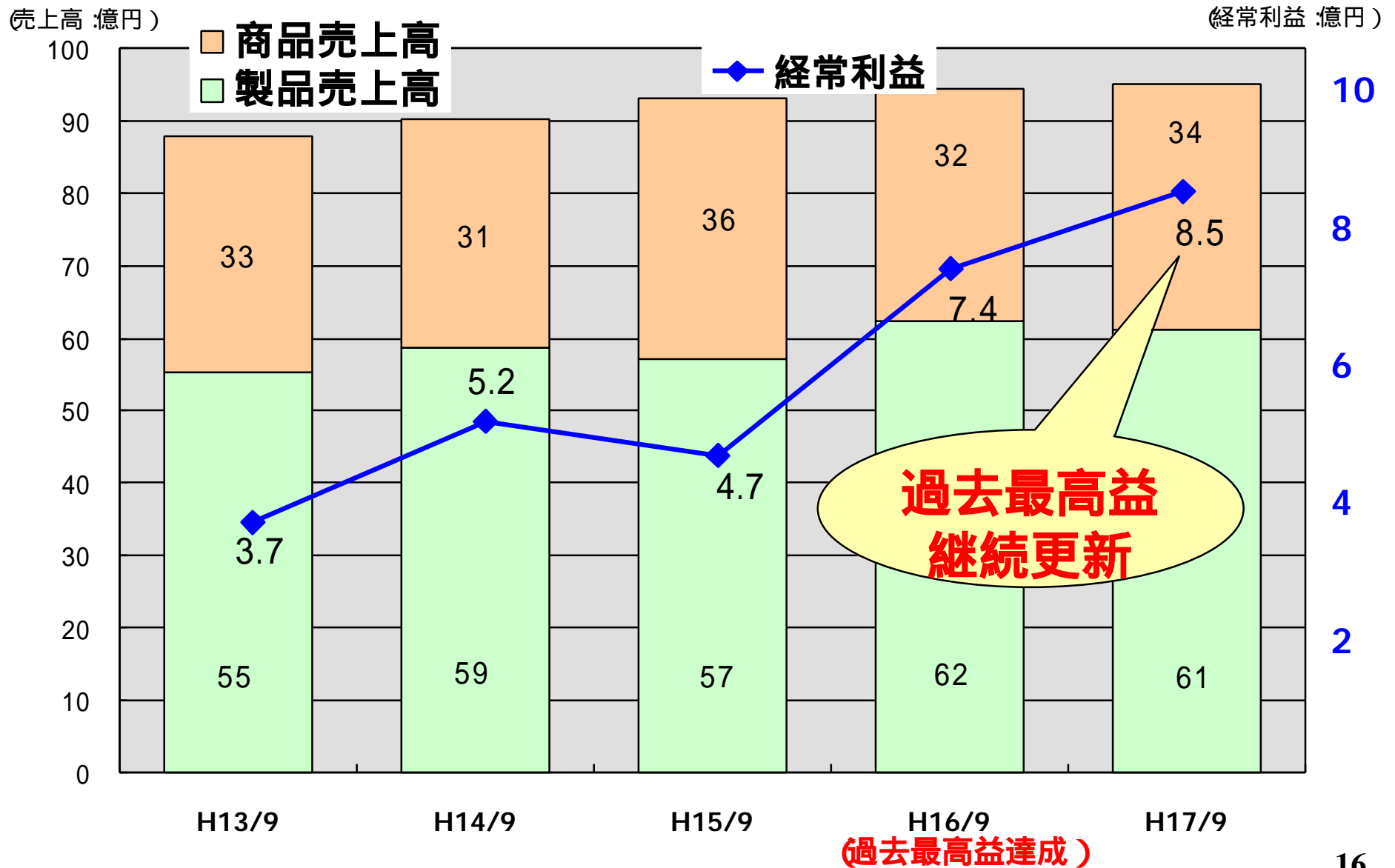
部門別構成比率 (製品)

H17/9

H16/9

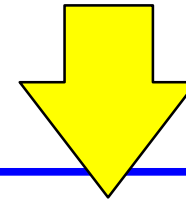


製品・商品売上高および経常利益推移



経常利益変動要因分析

H 1 6 年 9 月 期	7 . 4 億 円	}	1 . 1 億 円 増
H 1 7 年 9 月 期	8 . 5 億 円		



増益要因

収益構造の改善による増益

付加価値の高い自社製品の拡販による収益改善

トータルコスト競争力の更なる強化

購買VA、プロセス改善、要員効率化等

連結業績の概要 (財政状態)

億円

	H16/9	H17/9	増 減	
総資産	161.9	165.5	+3.6	(+2.3%)
株主資本	68.4	77.5	+9.1	(+13.3%)
1株当たり 株主資本	683.74円	774.93円	+91.19円	(+13.3%)

	H16/9	H17/9	増 減	
ROE	14.2%	14.2%	+0.0	ポイント
株主資本比率	42.2%	46.8%	+4.6	ポイント
1株当たり 中間純利益	47.09円	52.96円	+5.87円	(+12.5%)

貸借対照表 (資産の部)

億円

	H16/9	H17/9	増 減	特記事項
総資産	161.9	165.5	+ 3.6	
流動資産	97.0	103.0	+ 6.0	手元資金の増加等
有形固定資産	44.7	42.2	2.5	設備投資の重点化等
無形固定資産	2.1	1.6	0.5	
投資その他	18.1	18.8	+ 0.7	上場株式の評価差額増加等

貸借対照表 (負債・資本の部)

億円

	H16/9	H17/9	増 減	特記事項
負債合計	93.5	88.1	5.4	
流動負債	54.2	67.4	+ 13.2	短期借入金の返済 5等
固定負債	39.3	20.7	18.6	長期借入 ↑ 社債計18が流動へ (1年以内)
少数株主持分	-	-	-	
資本合計	68.4	77.5	+ 9.1	利益剰余金の増加、 有価証券評価差額金の増加等
有利子負債残高	35.0	30.0	5.0	収益伸長、効率的設備投資 により有利子負債を圧縮

キャッシュフローの状況

億円

	H16/09	H17/09	増 減
営業活動によるキャッシュ・フロー	8.3	7.6	0.7
投資活動によるキャッシュ・フロー	4.3	2.9	1.4 減
財務活動によるキャッシュ・フロー	4.5	3.5	1.0 減
現金及び現金同等物の増加額	0.5	1.2	+ 1.7
現金及び現金同等物中間期末残高	14.8	19.7	+ 4.9

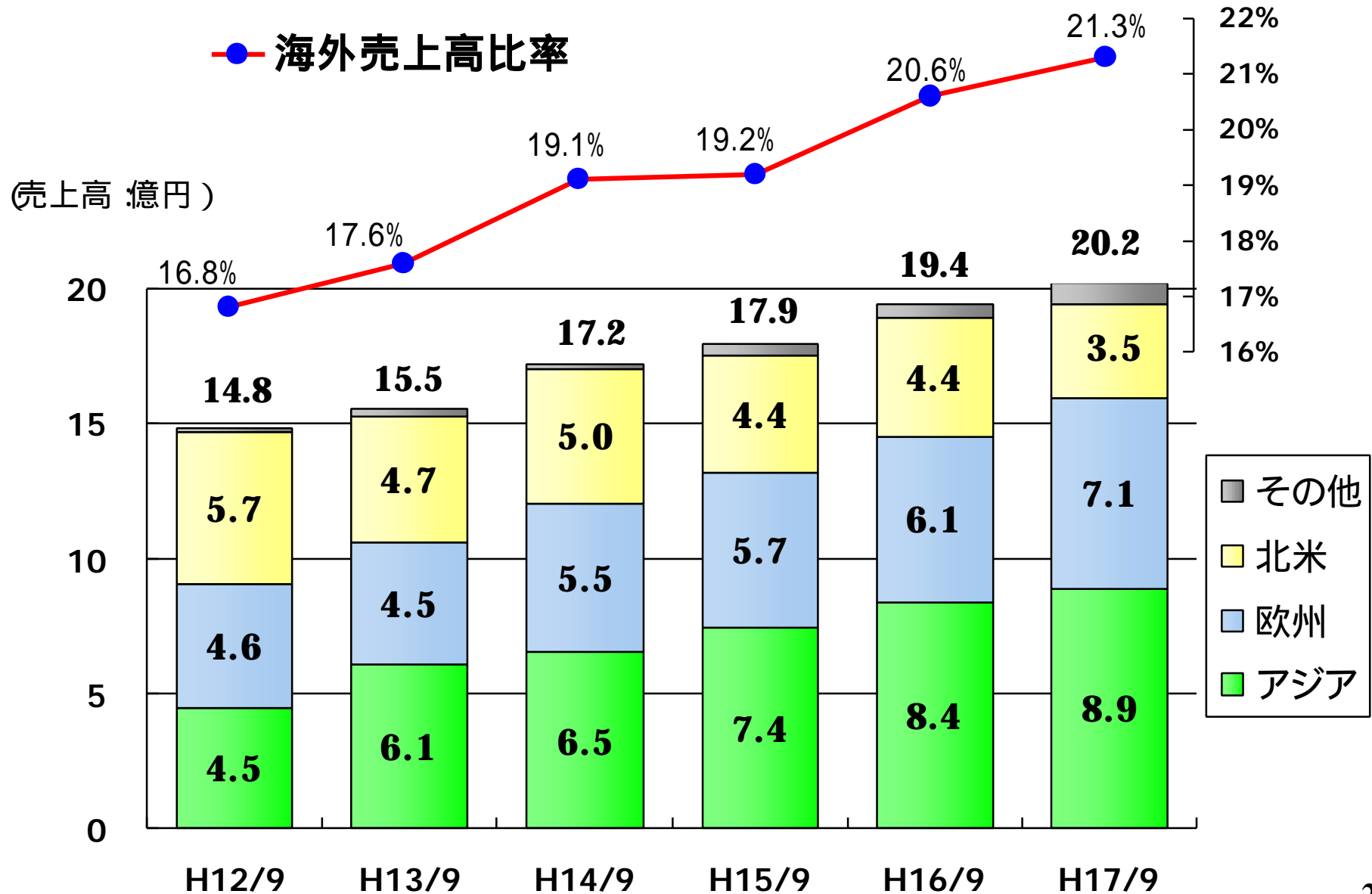
	H16/03		H17/03		H18/03
	中間	期末	中間	期末	中間
自己資本比率 (%)	38.0%	39.5%	42.2%	43.8%	46.8%
時価ベースの自己資本比率 (%)	31.3%	31.2%	37.1%	46.5%	48.6%
債務償還年数 (年)	4.5	2.5	2.1	2.1	2.0
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	27.6	45.1	52.9	53.1	53.5

設備投資 減価償却費 試験研究費

億円

	H16/9	H17/9	増減
設備投資	0.9	0.7	0.2
減価償却費	3.2	3.1	0.1
試験研究費	5.1	5.1	0.0

海外売上高の伸長



.平成18年3月期 中間決算概要 (単体)

単体業績の概要

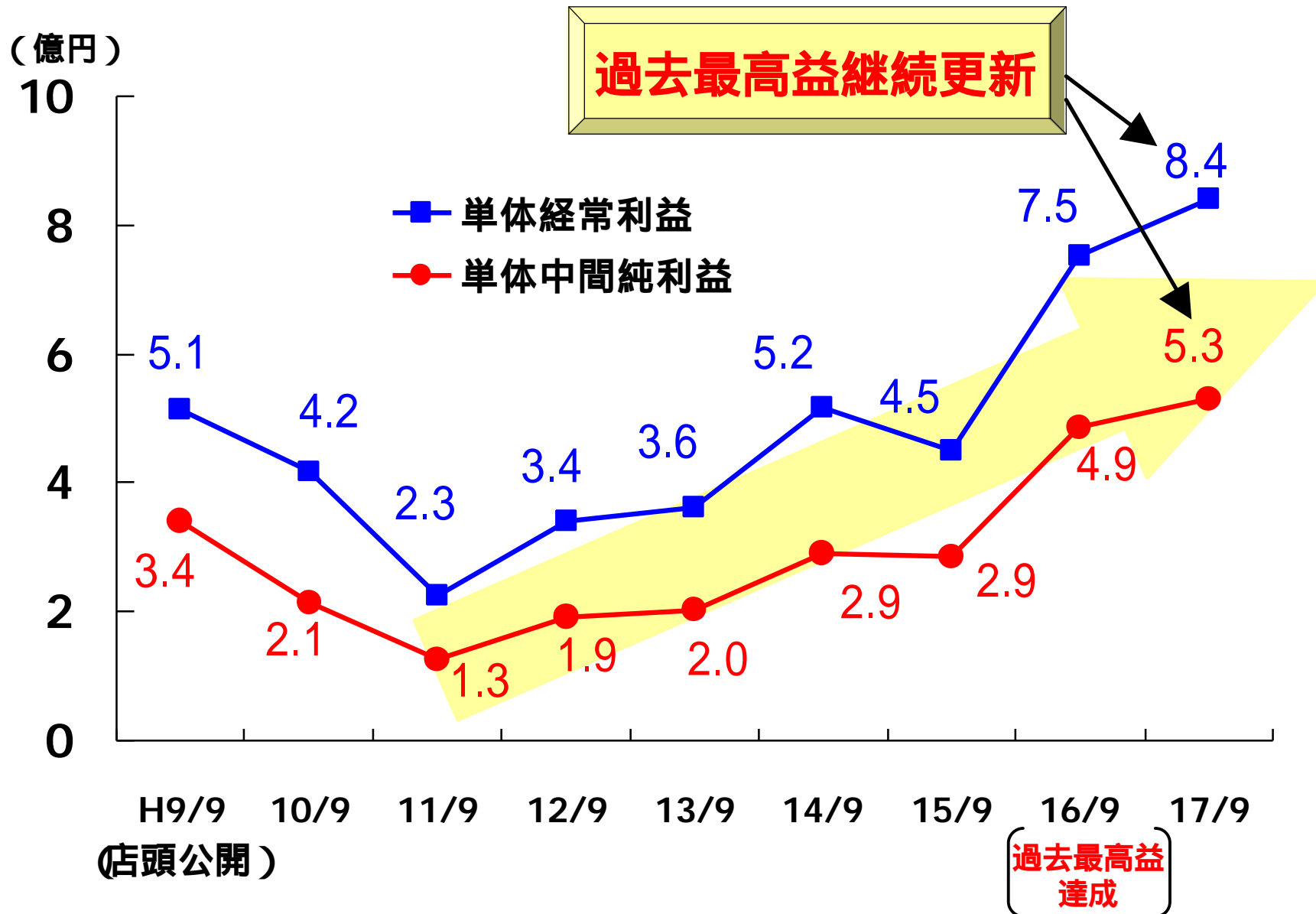
億円

単 体	H16/9	H17/9	増 減
売上高	93.5	94.3	+0.8 (+0.8%)
営業利益	7.3	8.2	+0.9 (+12.0%)
経常利益	7.5	8.4	+0.9 (+11.9%)
中間純利益	4.9	5.3	+0.4 (+9.2%)
総資産	156.8	160.5	+3.7 (+2.4%)
株主資本	64.4	73.1	+8.7 (+13.4%)

単体：1株当たり中間配当金 5円

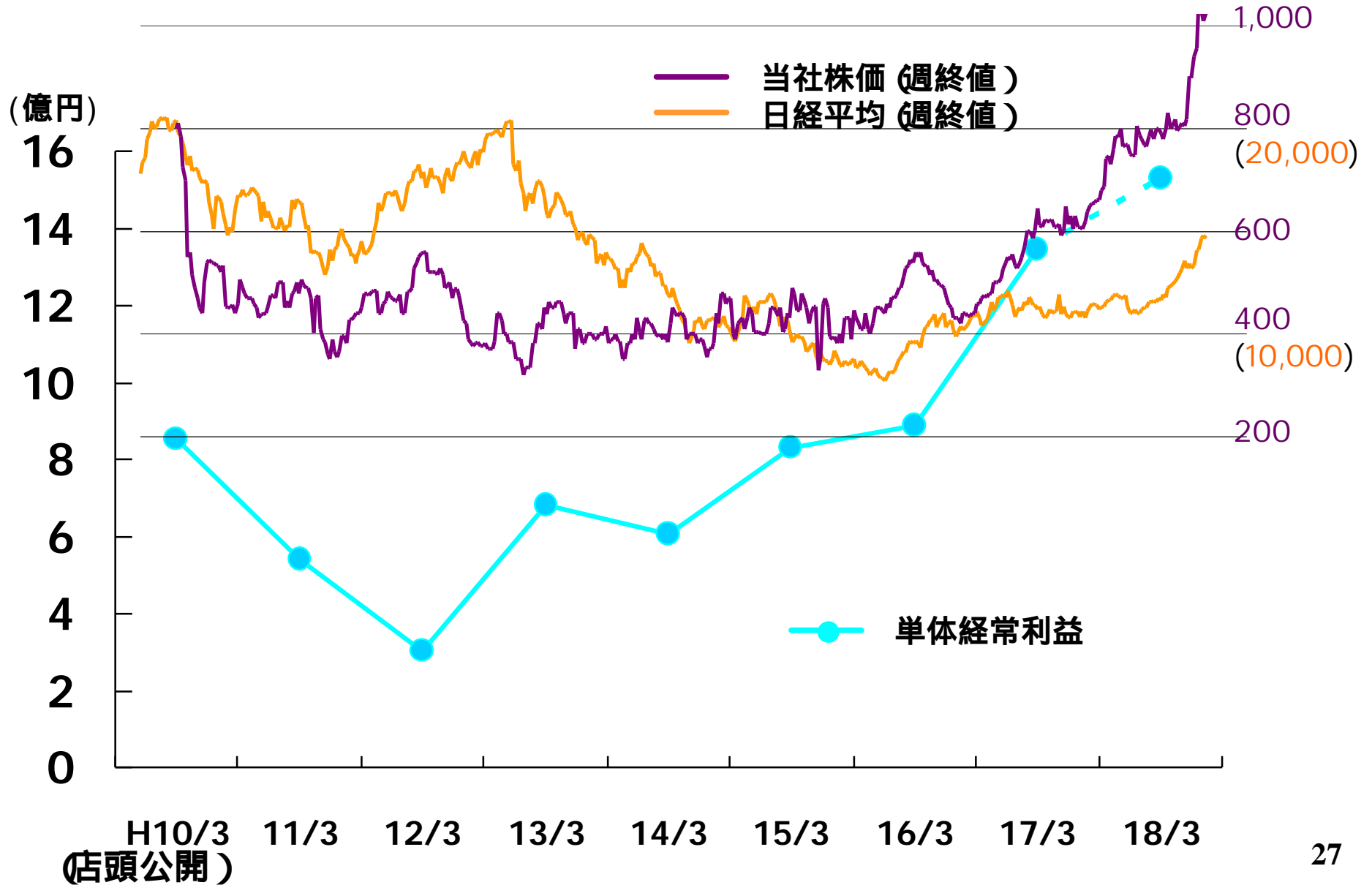
(利益配当金の 5円と合わせ、年間 1株当たり配当金10円を予定)

經常利益・中間純利益推移 (単体)



経常利益と株価推移 (単体)

〔 当社株価 単位 :円
日経平均 単位 :円 〕



.平成18年3月期 業績予想

平成18年3月期 市場環境

- フレグランス** **引き続き微減もしくは減少傾向
依然厳しい環境**
- フレーバー** **業界全体の販売金額は、横這い傾向
ユーザーの価格引下げ要請が厳しく競争
激化**
- 合成香料** **海外市場が拡大し、輸出が増加傾向**
- ケミカル** **農薬原料市場は緩やかな回復傾向
電子材料市場は上昇傾向**

平成18年3月期 業績予想

億円

		H17/3	H18/3(予想)	増減率
連結	売上高	184.8	188.0	1.7%
	経常利益	13.9	15.6	12.2%
	当期純利益	8.7	9.8	12.7%
単体	売上高	183.0	185.7	1.5%
	経常利益	13.5	15.3	13.7%
	当期純利益	8.5	9.5	11.7%

* 連結経常利益増要因 (+ 1.7億円)
 売上高増による増益
 トータルコスト競争力強化

.中期経営課題（平成16～18年度） の進捗状況

事業環境

- ・少子高齢化を背景に食生活の充実、「おいしさ」をより追求
- ・天然物への回帰、天然素材の香味を生かした製品
- ・食の安全 安心および健康志向の高まり
- ・国内市場は成熟傾向、グローバル化の進展
- ・価格競争が厳しく、技術力 提案力などレベルの高い競争へ

→ 多様化する消費者ニーズへの対応

より付加価値の高い新素材開発、新たな機能性を付加した製品 (呈味香料、機能性香料など) 開発に注力

中期目標

ユニークで存在感のある

香料会社の確立

ステークホルダーの期待に応えられる
香料会社
当社独自の技術を確立し、その技術を
活かした、新製品の上市

数値目標の進捗状況

	H15/3	H16/3	H17/3	H17/9	中経目標
連結経常利益	9.2 億円	9.6 億円	13.9 億円	8.5 億円	12 億円 以上
ROE	6.9%	9.2%	12.8%	14.2%	10% 以上
ROA	5.9%	6.2%	8.5%	10.3%	8% 以上
有利子負債	43 億円	39 億円	33 億円	30 億円	35 億円 以下
D/E レシオ	0.73 倍	0.61 倍	0.46 倍	0.39 倍	0.5 倍 以内

< 参 考 >

株主資本比率	36.3%	39.5%	43.8%	46.8%
総資本経常利率	5.7%	6.0%	8.5%	10.3%
売上高経常利率	5.2%	5.3%	7.5%	9.0%
期中株価高値	490 円	570 円	810 円	831 円
同 安値	330 円	419 円	509 円	700 円

* ROE 株主資本当期利益率 ROA 総資本営業利益率

* 資本利益率の各資本は期首・期末の平均

数値目標はすべて前倒し達成。

今後は利益水準と財務諸比率の更なる向上を目指す。

中期経営課題 施策

1)事業構造の改革

収益構造の改善

フレーバーを中心とした自社製品の売上高構成比率の向上による収益改善



当中間期の自社製品比率 64.3% (前中間期比 1.8ポイント)は低下したが、採算を重視した事業戦略により収益は向上

競争力のある技術の確立

- A .消費者起点のフレーバー用天然素材 調合加工技術の確立、事業化
- B .機能性素材（DHA、カテキン、ペプチド等）による製品差別化を図るユーザーに対応したフレグランス、フレーバーの技術確立



全社プロジェクトを立ち上げ、研究開発中

高付加価値 高機能天然香料及びその素材の開発

高度な調合加工技術の確立

2)時代に適合した事業形態への変革

フレーバー既存事業の拡大
飲料用を中心とした既存フレーバーの用途拡大、調味系
フレーバーの新規拡販

中国事業の拡大
今後のグローバル化、戦略的事業拡大のため、フレーバー
事業を最優先に中国事業 (現地生産プラス輸出) を拡大。



全社プロジェクトを設置、大型製品の上市

H17年度上期中国事業売上高 4.9億円

*** 中経目標 H18年度中国事業売上高 12億円**

3)人材の活性化

実力主義・成果主義に基づく〈新人事制度の導入による人材の活性化



管理職にはH16年4月、一般職にはH17年4月より実施。

4)強固な事業体質の確立 (高コスト体質の改善)

トータルコスト競争力の更なる強化

比例費削減 購買VA、プロセス改善によるコストダウン

要員の活性化、効率化

低採算品目の改善、生產品目の見直し

資本効率化 (在庫削減、設備投資の重点化、有利子負債削減)



* 中経目標値を上回る進捗状況

経営数値目標は前倒しで達成

更なる高収益企業グループを構築

来年度スタート「新中期経営課題」策定中

基本方針 - 各分野 (三本柱のフレグランス、フレーバー、
合成香料・ケミカル)での選択と集中による
事業強化・収益拡大」

これら課題 施策の確実な実施により

**財務体質の強化と
安定した収益基盤を確立**



ユニークで存在感のある

香料会社の確立

本資料中の平成18年3月期業績予想、見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

本資料に関するお問い合わせ

曾田香料株式会社

経理部

TEL : 03 - 5645 - 7340 (代)

FAX : 03 - 3668 - 6289 (代)